



小倉山の峰もよみて林の女あまの讀
 傳りしに木舟のそよまふをな
 の橋のあまをみかきしに女あまを
 舟のそよまふをみかきしに女あまを
 舟のそよまふをみかきしに女あまを

お深井のるきき

しるきき水も又

あまのるきき

しるきき

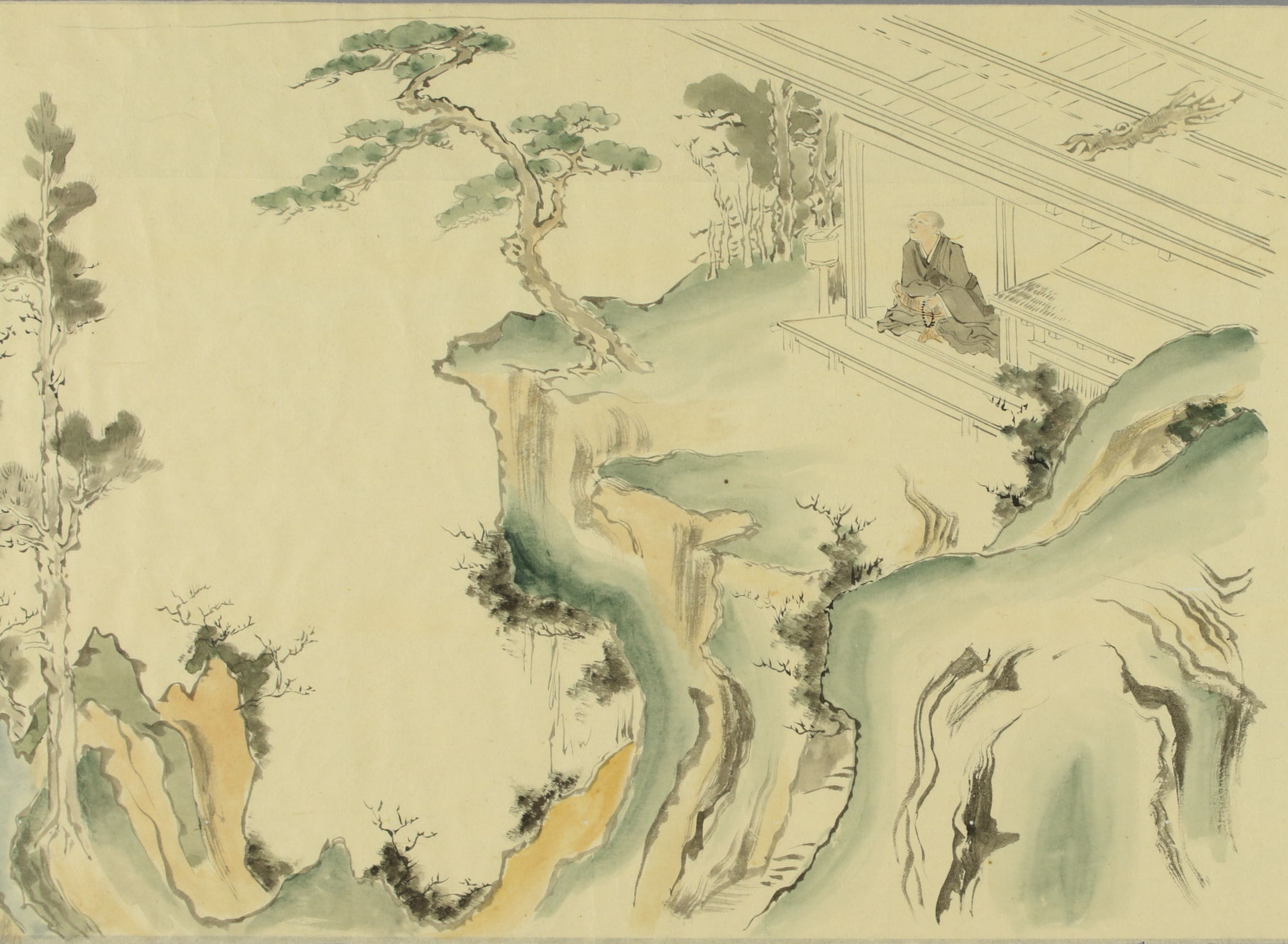
あま





新院
松山
清
月
石





同國善通寺と一山と云ふ侍一木菴乃前を留松とて
 記さるるやわのら乃世談をいふ所ありて其の
 身はとあるをいふ所ありて其の身はとあるをいふ
 事候一弘法大師の御りありて其の身はとあるをいふ
 せいこそありて其の身はとあるをいふ
 心を又いふ所ありて其の身はとあるをいふ
 松のひよりあるらんといはれん

松の心よりあるらんといはれん
ふを又さうまふしむていかにある



その松の心よりあるらんといはれん
ふを又さうまふしむていかにある









小倉山あり母もいふて妹の女あまの讀
 傳りしにたほせしそふまふりな
 う禮へあせあふしにたふりあま
 ちあふりたしりてたふりあま
 ちあふりたしりてたふりあま

お深井のるきき

りしむむ水り文

あまのるきき

りしむむ

りしむむ



Handwritten text in a cursive script, likely a diary or journal entry, written on aged paper. The text is arranged in several lines, starting from the top right and moving downwards. The characters are fluid and connected, characteristic of a personal or informal record.

再行記
向板寫原本海田相保筆四卷了



特別
千4
6356